TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

ケニアの物流最新事情　～モンバサ港と北部回廊～

東京海上日動火災保険株式会社
（2017 年 1 月 23 日）

今回の Topics では、アフリカ・ケニア共和国の最新物流事情をお届けします。昨年 8 月末ケニアの首都ナイロビで TICAD6 が開催され、アフリカ諸国は今後一層の経済発展が見込まれています。本号では、今後東アフリカの物流拠点としても期待高まるケニアで弊社が実施した物流調査の概要をご案内します。

1. TICAD6（第 6 回アフリカ開発会議）とケニアの経済動向

2016 年 8 月末にケニア・ナイロビで TICAD6 (※)が開催されました。本会議は、アフリカの 53 か国に及ぶ政府機関・民間セクターなどから 11,000 名以上が参加する大規模な会合となりました。共同議長を務めた安倍首相は、アフリカ諸国の経済の多角化及び雇用創出に繋がる質の高いインフラ投資の推進（3 年間で総額 3 兆円）や強靭な保健システムの促進を宣言しており、今後更なるアフリカ経済の成長及び日本企業のアフリカ進出が見込まれます。

本会議の開催国となったケニアは 4,500 万人の人口を擁し、東アフリカ地域のGDPの約 40%を占め、東・中央アフリカにおける経済、商業、物流のハブとして、ここ数年間に急速な経済成長を遂げてきました。今後も主力産業である農産物を中心に、TICAD6 の追い風も受けて更なる成長が期待されます。また、近年北西部では油田が、沖合のインド洋上ではガス田が発見され、商業生産に向けた開発が進められています。

一方、港湾や道路などの物流インフラは、現地の投資開発団体やJICAなどの支援も受けながら整備が進められていますが、まだまだ多くの課題が残っていると考えられます。

(※) TICAD(Tokyo International Conference on African Development)とはアフリカの開発をテーマとする国際会議であり、日本政府主導で、国連や世界銀行などと共同で開催するもので、2016 年で 6 回目を迎えました。

TICAD6 参加者集合写真

共同議長としてスピーチする安倍総理大臣

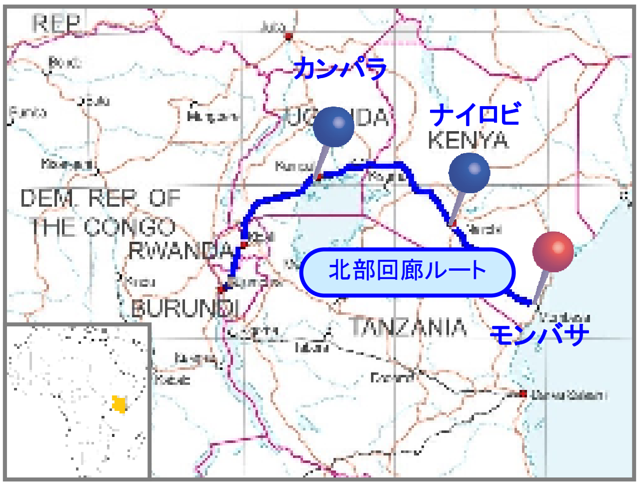
写真出典：外務省ホームページ(http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/)、内閣広報室撮影

2. ケニアの物流事情

(1)モンバサ港

ケニア第 2 の都市であるモンバサ市にあるモンバサ港は、インド洋に面する入り江を利用した、東アフリカ地域最大の国際貿易港です。ケニア国内の輸出入拠点としてだけでなく、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジなどの「北部回廊」でつながる後背内陸国の玄関港として機能しており、東アフリカ地域の経済発展を支える重要な港です。また、コンゴ民主共和国の東の玄関口としての役割も果たしています。

国際協力機構(JICA)の円借款により建設された新コンテナターミナル(バース 20 および 21)は 2016 年 9 月にケニヤッタ大統領も参加して開港式が行われ、コンテナ処理能力は年間 105 万 TEU から 160 万 TEU に拡張されました。第 2 期開発計画完了後にはコンテナ処理能力は 250 万 TEU に達する見込みです(2015 年に日本国内第 4 位であった名古屋港のコンテナ取扱数 263 万 TEU に迫ります)。
過去には沖待ち等で入港/搬出に 10 日以上を要していましたが、現在は 2～3 日程度と大幅にリードタイムの短縮が図られています。



モンバサ港および北部回廊ルート
（地図：Google）

ケニアの自動車市場に目を転じますと、2015 年では約 107,761 台(暫定値)と新規登録台数で 10 万台を突破し、堅調な伸びを示しています。しかしながら、中古車が圧倒的シェアを占めており、2014 年データによると新規登録台数の約 83%は中古車となっています。

また、モンバサ港では自動車の盗難対策として中古車を含む全ての自動車が屋内で保管されており、特にグレードの高い車両についてはオフィスから目の届く区画されたスペースに保管されていました。

中古車輸入に関しては、初回登録年月日から8年未満までの輸入規制が設けられていることから、比較的コンディションの良い中古車が並んでいました。

モンバサ港でのコンテナ荷役風景
（写真：弊社写真撮影）

モンバサ港で屋内保管される商品自動車
（写真：弊社社員撮影）

(2)北部回廊

北部回廊はモンバサを起点として、ケニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国、南スーダンに接続する複数の輸送モード(道路、鉄道、水運、パイプライン)を持つ回廊で、東アフリカの物流にとって最も重要な回廊として機能しています。

　路面状況は、ひび割れや段差など劣化が著しい箇所が多く、補修によるメンテナンスが追い付いていない状況が伺えました。特に工事区間は道路に並行して設けられる迂回路は未舗装の状態で大きな凹凸も多数見られることから、輸送中の振動による荷崩れや衝撃による製品破損、更にはトラックの横転も懸念されます。

　セキュリティ面においては、モンバサ周辺にはフェンス、ゲートで仕切られた物流会社専用のパーキングが設置されていますが、ルート途上にあるパーキングはオープンスペースのものしかなく、強盗やトラックジャックによる盗難リスクが懸念されます。

片側 1 車線の直線道路のため渋滞しやすい

（写真：弊社写真撮影）

北部回廊上の迂回路の路面状態

（写真：弊社社員撮影）

ルート途上の私設パーキングの様子

（写真：弊社写真撮影）

◇◆

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」
http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html